

集落元気づくりへの支援策の提案

1. 集落元気づくりへの支援策の提案

今回の調査で実施した①アンケート調査、②ワークショップ(以下WS)、③先行事例調査にて得られた成果と残された課題から、今後の集落元気づくりへの支援策について検討し、提案する。

基本方針；存続が危ぶまれる集落の、統計に表れない集落の実態を正確に把握し、集落に居住する人々のニーズを踏まえた「集落元気づくり」へのきっかけをつくり、その実現に向けた集落支援の仕組みづくりを提案する。

本調査の成果・わかったこと

- アンケート
 ■ ワークショップ
 ■ 先行事例
- 集落基礎データは既存統計データでは把握困難
 - 小規模集落の実態把握はさらに困難
 - 世帯毎のきめ細やかな情報分析が必要
 - 参加の場の創出でのWS開催効果を確認
 - 小規模な集落ほど集落元気づくりへの取組を開始することが困難
 - きっかけづくりは、外的支援が有効
 - 暮らしの不安の解消が必要
 - 集落の近隣に生活する他出者の実態
 - 九州圏内で集落元気づくりへ協力意向のあるNPOは約200団体
 - 効果的な先行事例の紹介が必要
 - 集落元気づくりへの支援者は多様
 - 集落元気づくりには取組を始めたきっかけやプロセス事例が有効
 - 行政への「集落元気づくり」への支援要望は高い
 - 集落元気づくりを支える専門家の育成
 - WS後の実行段階での支援策の検討
 - 集落元気づくりへの支援分野は多様

課題

- 集落単位実態を踏まえて考え方の整合を図る
- 集落支援を行うのに必要な基礎情報を独自に集めることが必要
- 把握が困難な小規模集落に対しても実態を継続的に把握する事が必要
- 世帯毎の実態把握のため、他出者や世帯毎の不安等のきめ細やかな実態の把握と分析が必要
- 九州圏特有の離島・半島地域等の集落でも実施・検証する必要がある
- 集落元気づくりの話し合いの場の創出に困っている小規模集落に対する支援が必要
- 小規模集落等、参加の場の創出が困難な集落において、集落再編や住み込み型等の手法の検討
- 集落元気づくりへのきっかけづくりに向けた行政などが主体となった集落外部からの支援が必要
- 人が生活を続けていくための不安解消が必要
- 集落の周辺に居住する他出者も持続的な支援者
- 無理のない集落支援体制を地域の実情に応じて構築
- 集落元気づくりに有効な多様な分野にまたがる先行事例を活用するための収集・整理が必要
- 集落元気づくりに関する支援組織、交流の場づくりに着目した事例紹介が必要
- 現在実行中のもも含め、事業進行過程にある事例を収集し、実現プロセスや課題克服への工夫等を整理し活用することが必要
- 集落元気づくりのきっかけづくりをはじめとして行政が関与する支援体制の構築が必要
- 集落元気づくりに取り組む専門技術を有する人材育成の検討
- 実行段階において集落及びその支援者が求める支援及びフォローアップの検討
- 多様な集落側ニーズへ対応するため、横断的な組織体制による集落支援の検討

今後の取組提案

提案①集落情報データベース(仮称)作成

- 集落の正確な実態把握 (20世帯以下、集落単位の整合)
- 集落情報のモニタリングによる継続的な収集

提案②集落元気づくりへのきっかけづくり

- 世帯ごとのニーズ、意志に基づく元気づくり
- WSの効果検証のための半島や離島、小規模集落等での展開
- 通い型(WS等)と住み込み型の採用

提案③自立的な集落元気づくりの取組体制の構築

- 暮らしの不安解消・軽減に向けた取組推進
- 他出者も含む取組体制の検討

提案④集落元気づくり知恵袋集の作成・更新

- 使いやすい検索キーの工夫(多様な分野へのニーズに対応)
- 支援組織、交流の場づくりの事例収集・整理
- 進行過程の事例の収集・整理(実現プロセスや課題克服への工夫等)
- 利用性と注目度の高さを維持する定期更新

提案⑤集落元気づくりを支援する中間組織の検討

- 元気づくりのきっかけづくりから自立までを支える支援者・団体を支援する中間組織の構築
- 産学公民の組織横断的な取組体制づくり
- 集落支援づくりに携わる専門家の育成
- 実行段階におけるノウハウ提供(知恵袋集)

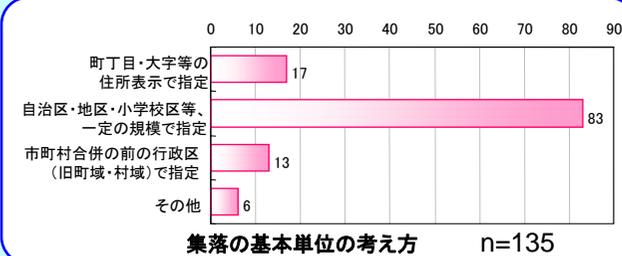
集落元気づくりへの支援策の提案

提案① 九州圏集落情報データベース(仮称)の作成

本調査の成果・わかったこと

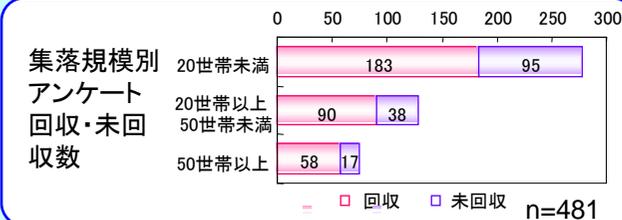
集落の基礎データは既存の統計データでは把握が困難

集落単位が自治体毎に異なるため、集落の実態を正確に捉えることが困難



小規模集落の実態把握は更に困難

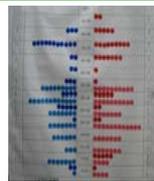
集落アンケートにおいて、小規模な集落ほど、アンケートへの回答率が低く、情報入手が困難であることがわかった



世帯毎のきめ細やかな情報分析が必要

世帯毎に実態を点検し、情報分析することにより、身近な集落支援者(他出者)の実態把握

八重集落の人口構成では、集落人口の2倍が他出している
また、他出者のうち、約3割程度が近隣市町村に定住している。



課題

集落単位の実態を踏まえて考え方の整合を図るなどの工夫が必要

集落支援を行うのに必要な基礎情報を独自に集めることが必要

把握が困難な小規模集落に対しても自治体と協力して情報を収集し、実態を継続的に把握することが必要

世帯毎の実態把握のため、他出者や世帯毎の不安等のきめ細やかな実態を把握し、その傾向を分析することが必要

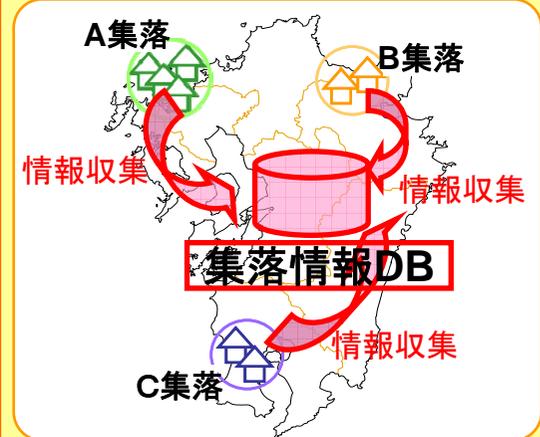
凡例

- アンケート調査による成果
- ワークショップによる成果
- 先行事例調査による成果

今後の取組提案

九州圏集落情報データベース(仮称)の作成

20世帯以下の集落の実態も含む、集落情報を継続的に収集し、集落元気づくりの展開に必要な九州独自の集落実態の継続的に把握する。



- 自治体・集落からの定期的な集落情報の収集(アンケート)
- 地理情報システム等を用いた集落データの集計・蓄積
- 集落データの分析
- 世帯毎のニーズ把握による他出等の傾向分析
- 集落実態を継続的に把握

集落元気づくりへの支援策の提案

提案② 九州版「集落元気づくり」へのきっかけづくりWSによる支援

本調査の成果・わかったこと

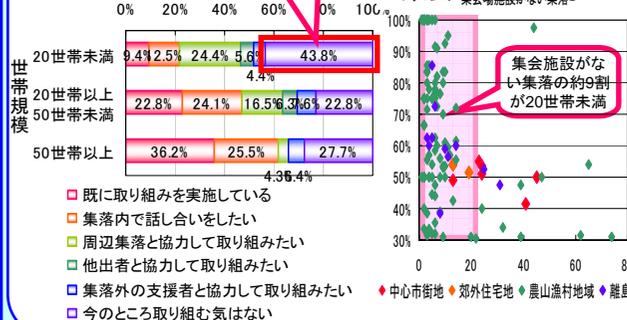
参加の場の創出でのWS開催効果を確認
 集落元気づくりのWSを、初期段階(参加の場の創出)に開催することの効果を確認された
 八重集落でのWSは集落活動のやる気(新たな取組)に結びついた



集落元気づくりワークショップ

小規模な集落ほど集落元気づくりへの取組を開始することが困難

集落元気づくりへの取組み意欲



きっかけづくりは、外的支援が有効

先行事例調査において、外的支援により活動を開始し、その後自立していく事例が多く見受けられた



学生の農業体験交流

10年前に行政支援を受けて取組開始。現在は集落連携により自立して活動(余谷:宇佐市内町)

課題

九州圏特有の離島・半島地域等の集落でも実施し検証することが必要

集落元気づくりの話し合いの場の創出に困っている小規模集落に対する支援が必要

小規模集落等、参加の場の創出が困難な集落においては、住み込み型をはじめとしたWS以外の手法の検討が必要

集落元気づくりへのきっかけづくりに向けた外的支援に積極的に取り組む事が必要

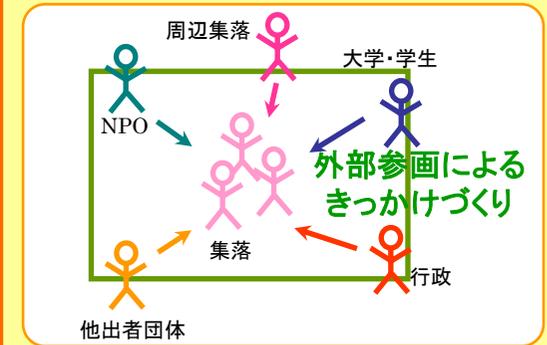
凡例

- アンケート調査による成果
- ワークショップによる成果
- 先行事例調査による成果

今後の取組提案

九州版「集落元気づくり」へのきっかけづくりWSによる支援

八重集落にて実証された集落元気づくりWSの効果を検証する。九州各地で検証する。その際、世帯毎の意向や他出実態も調査し、参加者の意志による元気づくりを支援する。



- WS開催を地理的条件の違う集落で実施(離島・半島部)
- WSを開催する集落の世帯規模・高齢化率を変えて実施
- 本当に支援を求めている小規模集落(20世帯未満)へは再編も含めた支援策の検討
- WSやその他支援手法について検討(地元団体による長期的支援、学生等地元滞在型支援のあり方)

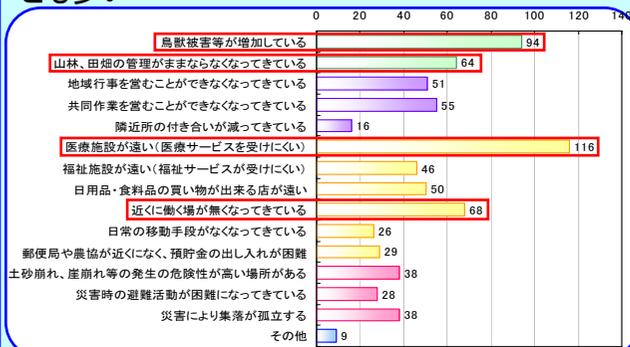
集落元気づくりへの支援策の提案

提案③ 九州版「自立的な集落元気づくり」の取組体制の構築

本調査の成果・わかったこと

暮らしの不安の解消が必要

集落アンケートに記された暮らしの不安の解消は集落元気づくりのために先ず考える必要があるが、集落だけで取り組む事が困難なことも多い



集落の近隣に生活する他出者の実態

八重集落の全世帯アンケートより、日常的に戻れる距離に居住している世帯も多い



九州圏内で集落元気づくりへの協力意向のあるNPOは約200団体

H19年度アンケート調査において、集落支援を考えても良いと回答したNPOは九州圏で約200団体存在した

課題

人が生活を続けていくための不安解消が自立的な集落元気づくりにはまず必要

後継者を含む他出者が集落周辺に住んでいる場合、持続的な支援者として他出者も含め考えていく必要がある

持続的な集落元気づくりの展開には、新たな支援者も含めた支援体制を地域の実情に応じて構築する必要がある

凡例

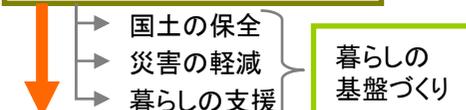
- アンケート調査による成果
- ワークショップによる成果
- 先行事例調査による成果

今後の取組提案

九州版「自立的な集落元気づくり」の取組体制の構築

集落に人が住み続けることにより維持される国土の保全をはじめとした暮らしの不安軽減を図った上で、自立的な集落元気づくりの体制を検討し、構築を支援する。

暮らしの不安解消・軽減等



集落元気づくりの実現



資源活用による産業振興等
集落元気づくりへの展開

○集落の暮らしの不安解消・軽減に向けた取組の推進

○集落再編や他出者等の協力も含めた「集落元気づくり」の実現に取り組む体制の検討・構築支援

集落元気づくりへの支援策の提案

提案④ 九州版「集落元気づくり知恵袋集」の作成・更新と活用

本調査の成果・わかったこと

効果的な先行事例の紹介が必要

WSでの先行事例の紹介は更なる深い議論のために有効であるが、事例が不足する分野等の補完が必要である



集落元気づくりへの支援者は多様

先行事例調査において集落支援を行う支援者は、NPO、他出者団体、行政等多様であることがわかった



菅集落(山都町) NPOによる集落支援(ワークショップ)

集落元気づくりには取組を始めたきっかけやプロセス事例が有効

現在進行過程にある集落元気づくりの活動主体・集落住民に対する現地調査により、支援を受けたきっかけ・時期について把握したことで、プロセスも含めた助言が可能となった。

課題

集落元気づくりに有効な多様な分野にまたがる先行事例を活用するための情報収集・整理や情報提供ツールの充実が必要

集落元気づくりにおける支援組織、交流の場づくりに着目した事例紹介が必要

現在実行中であるものも含め、事業進行過程にある事例を収集し、実現プロセスや課題克服への工夫等を整理し活用することが必要

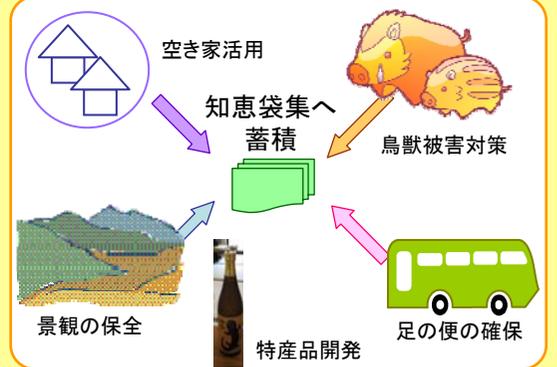
凡例

- アンケート調査による成果
- ワークショップによる成果
- 先行事例調査による成果

今後の取組提案

九州版「集落元気づくり知恵袋集」の作成・更新と活用

集落元気づくりを行う上で、集落特有の課題を解決するための知識や技の蓄積を図り、個々の集落に顕在化するニーズ(不安の解消)に合わせた集落元気づくりを進めるツールとして用いる。



- 集落元気づくりに必要な取組分野やプロセスに着目した先行事例の収集・整理を現地調査を基本に実施
- 集めた先行事例をデータベース化し、知恵袋集として公表・活用
- 集落元気づくりの進行に合わせて、新たな情報を定期的に更新

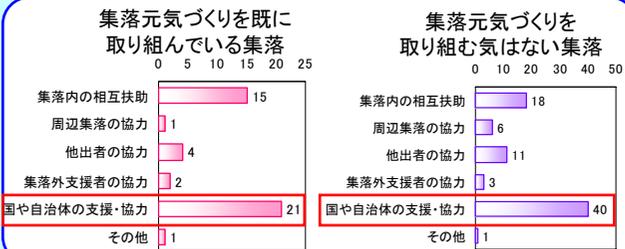
集落元気づくりへの支援策の提案

提案⑤ 九州圏の「集落元気づくり」の支援を行う中間組織の検討

本調査の成果・わかったこと

行政への支援要望は高い

集落元気づくりへ取り組む気がある、ないに関わらず、国や自治体への支援・協力要望は高い



集落元気づくりを支える専門家の育成

集落元気づくりを集落にて展開するためにはある程度の専門性や経験が求められる

WS後の実行段階での支援策の検討

集落元気づくりが実行される時の支援体制の構築とその後のフォローアップが必要。



光男さくらの下に挿し木されたミツマタ。今後このミツマタの活用や都市交流へと活動が発展した際のフォローアップが必要(八重集落)

集落元気づくりへの支援分野は多様

鳥獣被害、生活サービス(医療・教育等)支援、災害不安、伝統文化継承、国土保全など、集落元気づくりへの支援分野は広範に及ぶ

課題

集落元気づくりのきっかけづくりをはじめとして行政が関与する支援体制の構築が必要

集落元気づくりに取り組む専門技術を有する人材育成の検討

実行段階において、集落及びその支援者が求める支援及びフォローアップの検討

多様な集落側ニーズへ対応するため、横断的な組織体制による集落支援体制の検討

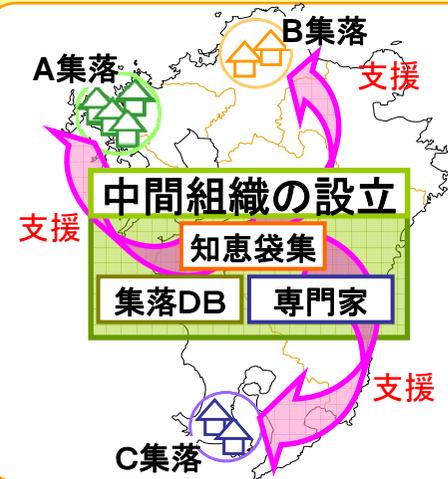
凡例

- アンケート調査による成果
- ワークショップによる成果
- 先行事例調査による成果

今後の取組提案

九州圏の「集落元気づくり」の支援を行う中間組織の検討

九州圏の集落元気づくりの展開に向けた直接的な支援や支援者・団体の人材育成への支援を行うため、集落に対する総合的な支援を可能にする専門家集団(中間組織)の設立を検討する。



- 横断的組織体制構築に向けた検討
- 集落支援を実施している・実施したい団体との協働的取組体制の検討
- 集落データベースの分析、知恵袋集の活用